

女子学生および中年女性の 服装に関する社会規範意識の比較

山 本 昌 子

目 的

服装についてはさまざまな社会規範があってその秩序が維持されている。しかし最近の個性化、多様化、情報化、経済状況等による新しい生活様式の社会現象から、また年齢によっても服装に対する規範意識も変化しつつある。今回は、前報で報告した女子学生の調査と同じものを女子学生の母親にも行い、両者の服装に対する社会一般の服装期待と個人的評価の違いを測定するとともに、独自性欲求との関連性をも検討した。

方 法

服装についての社会規範は、年齢、性別、場面、職場、和服、慎み、学校の制服に関するそれぞれ2～6項目から構成される尺度を用い、社会的評価、個人的評価を測定した。また独自性欲求は、Snyderの尺度（岡本の翻訳）を用いて測定した。

結 果

母親の社会的評価と個人的評価の差は、学生のそれより差は小さく、母親は学生よりも世間の考えと個人の考えが接近していることがわかる。また「Gパンで目上の人のお宅を訪問しない」などの項目については社会的評価よりも個人的評価の方が厳しくなっている。学生と母親の独自性欲求得点によって被験者を3分割し、年齢や性別などの規範の種類別に、社会的評価と個人的評価の差のスコア（D得点）を算出して比較（分散分析）したところ、学生は性別、職場、和服、学校の制服、慎みに関する規範、母親は年齢、性別、職場、和服、学校の制服に関する規範について独自性欲求得点の大きいグループのD得点が有意に大きいことがわかった。さらに全項目にわたって加算した社会的評価（S）得点、個人的評価（Y）得点およびD得点のそれぞれについて独自性欲求得点との関連を検討したところ、独自性欲求得点の大きいものはY得点、D得点が有意に大きいことが認められた。

学 会 日本家政学会第40回大会研究発表会

期 日 昭和63年5月28日～29日

場 所 日 本 女 子 大 学